

E-21 長時間通勤が生活に及ぼす影響について(第4報) 通勤者の交際及び結論
D産業デザインK.K. O宇田純子 田中信代 中森せつ子 吉岡洋子

第4報では、通勤時間が長くなることによって通勤者の近隣交際や休日の生活に及ぼす影響について述べ、さらに永住意識にふれ結論を述べる。

近隣交際については町内会全会に参加したりという意識を持ちながら実際の会合参加度が低い人には、比較的長時間通勤者が多いことがわかる。

また休日は平日の生活時間の不足をヒリもどしたりと望む人が多いが、とりもどすことは難しりと見える。なお、通勤時間の長い人ほど、通勤による疲労を感じる人がよくある人ほど外出せず、家や近所で過ごすという傾向がみられる。

永住意識は全体として高いが、郊外の一戸建てマイホームを入手したにもかかわらず、1割の人が転居意志をもっていることはかなりの問題を含んでいる。さらに、通勤時間の長い人ほど、また通勤による疲労をよく感じる人ほど永住意識は弱く、家族と離れて職場に近いところに下宿、アパートを借りたり、マンションなどを借りたりという希望を持つ人が多くなり、桔梗が丘の場合通勤時間の長いことが永住意識を左右する重要な因子となっていることがわかる。

以上第1報から第4報で述べた事柄を考慮に入れ、睡眠時間と時間の確保、通勤による疲労、家庭生活に与える影響等の面から、通勤時間は片道45分以下が望ましいと思われる。

さらに、長時間通勤の是正としては、大都市内部の再開発や職場の分散を提唱したい。